シーズスタジオ

配信スタジオ
使い方マニュアル

ケーブルの大半は接続済みです。お客様に行っていただくのは、
機材を運んで組み立て、タグの付いたケーブルを挿すところまで
です。

うまくいかないときは「困ったとき」（11章）へ。

3台 / 4本 / 4台

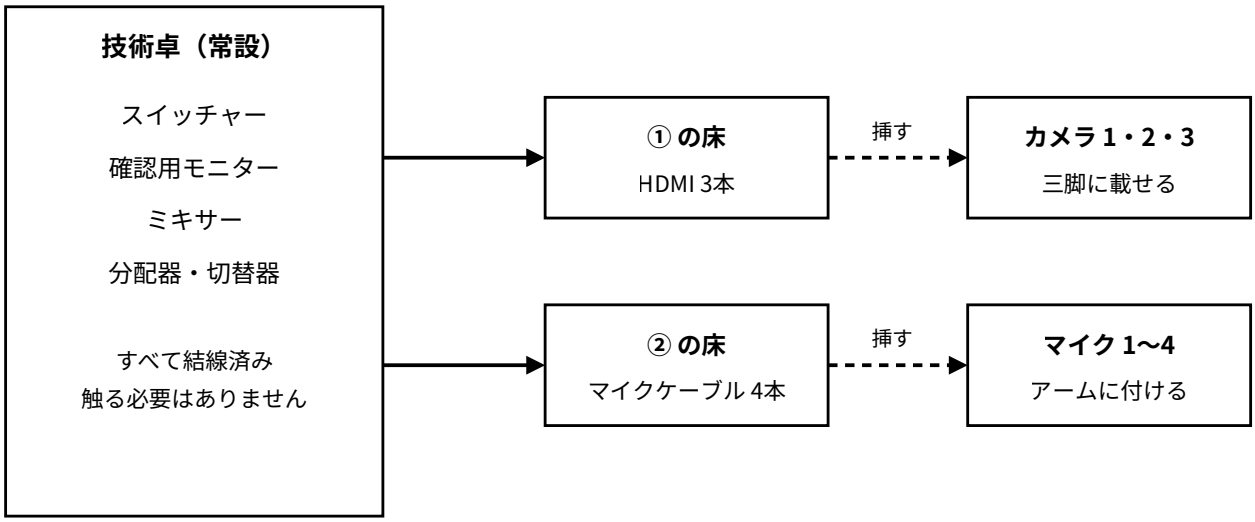
カメラ / マイク / 照明

---

01 はじめにお願い
02 機材を運んで組み立てる
03 ケーブルを挿す
04 電源を入れる
05 照明を配置する
06 カメラを操作する
07 音を出す
08 映像を切り替える
09 PC・録画・映像出し
10 撤収する
11 困ったとき
12 連絡先

01 はじめにお願い

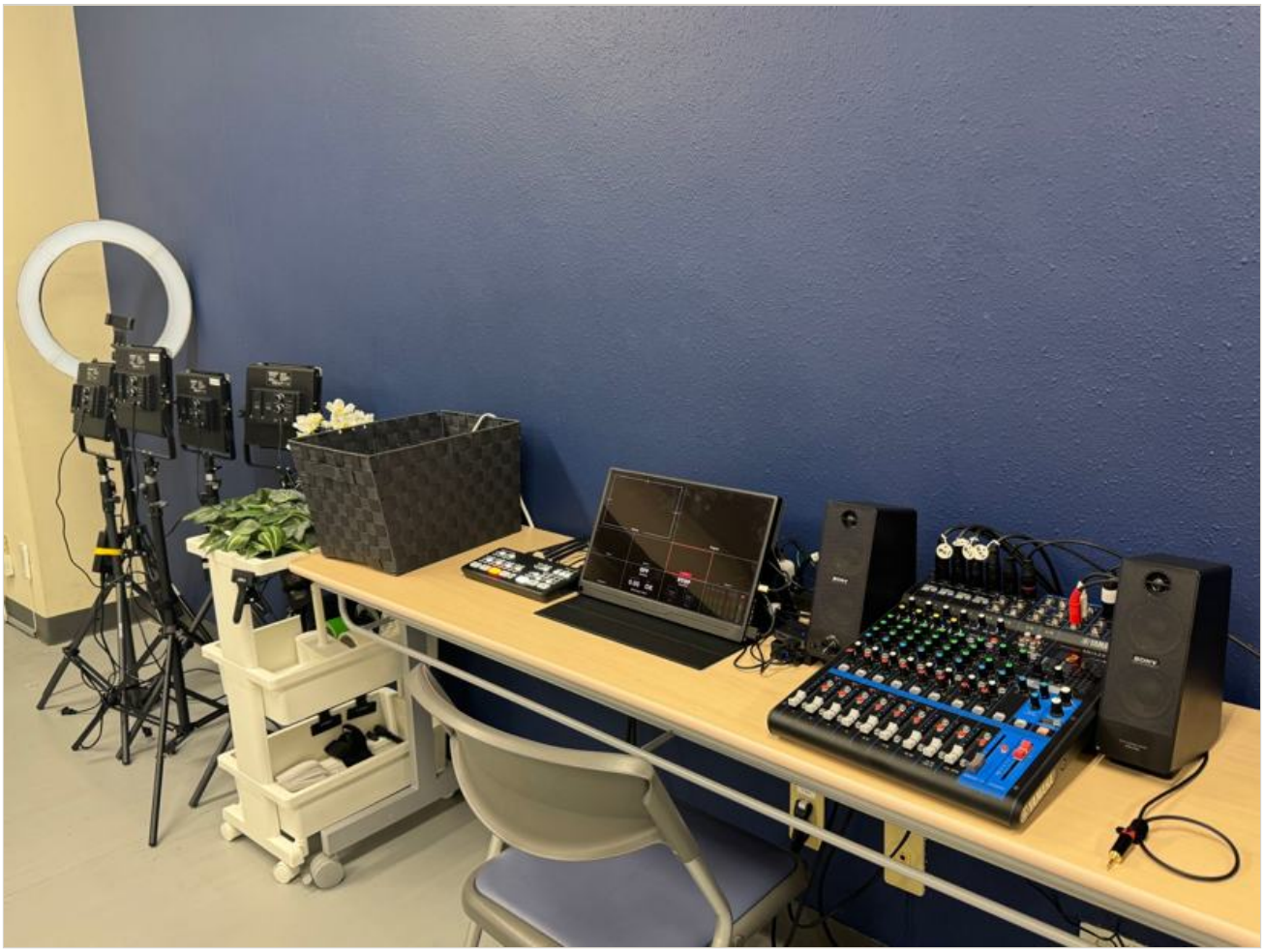
スイッチャーやミキサーなどの機器は、あらかじめ接続した状態で設置しています。お客様に触っていただくのは、カメラ・マイク・照明だけです。



お客様の作業は、点線の部分だけです。技術卓は結線済みなので触りません。

技術卓の機器には触れないでください

スイッチャー、ミキサー、確認用モニター、分配器、切替器を置いた台を**技術卓**と呼びます。ここに挿さっているケーブルは抜かないでください。抜けると、その日の撮影ができなくなることがあります。



右が技術卓。左に照明とリングライトがまとまっています。机の上の黒い籠にカメラとリモコンが入っています

機材の置き場所

必要な機材は、**技術卓のとなり**にまとめてあります。上の写真をご覧ください。

機材	数	置き場所
カメラ	3台	技術卓の下の黒い籠 充電した状態で収納しています
カメラ用リモコン	1台	
カメラ三脚	3台	技術卓のとなり
照明	4台	
リングライト	1台	

機材	数	置き場所
スピーカー	2台	技術卓の上
マイク	4本	ソファ横のコンテナ
マイクアーム	4本	

ご利用にあたって

- スタジオ内に立入禁止の場所はありません。
- 飲食は可能です。**ゴミはお持ち帰りください。**
- 飲み物は機材から離れた場所に置いてください。
- ケーブルは通路を横切らないように配線してください。足を引っかけると機材ごと倒れます。
- ケーブルを抜くときは、必ずコネクタ部分を持ってください。

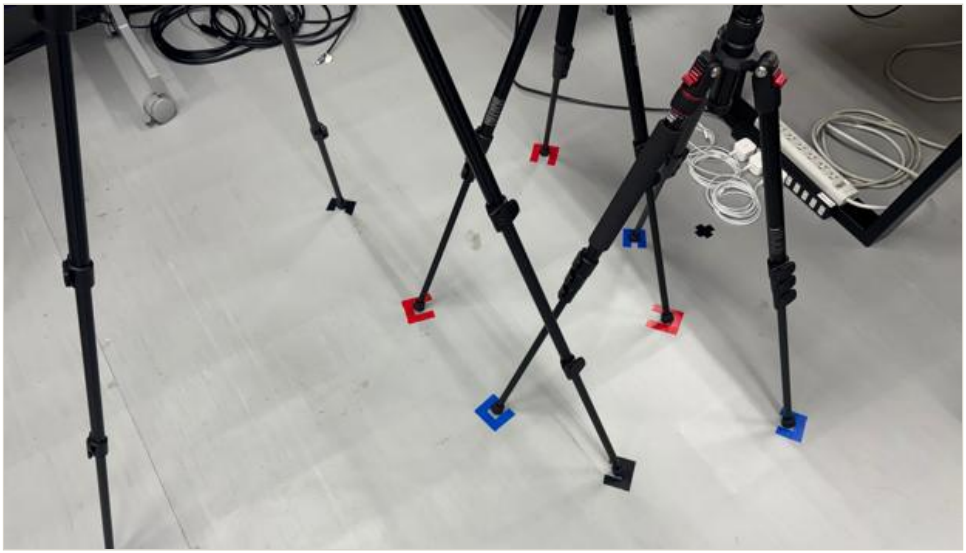
> **機材を破損された場合**
>
> 弁済をお願いしております。**気づいた時点で、予約サイトのお問い合わせ窓口までご連絡ください。**黙って戻されると、次のお客様が撮影できなくなります。隠さずお知らせいただくほうが助かります。

02 機材を運んで組み立てる

まだ電源は入れません。先に形をつくります。

三脚を立てる

技術卓のとなりから三脚3台を運び、**床の印に合わせて**立ててください。印は色で分かれていて、脚1本ずつに付いています。



印の上に脚の先を置きます。色ごとに3台分あります

> **位置と高さは決まっています**
>
> この位置と高さで、3台の画角がちょうど良くなるように設計しています。**カメラ本体のシールの番号と、床の印の色を合わせて立ててください。**

カメラ	床の印	立てる位置	高さ	写すもの
カメラ1	**青**	向かって右	脚は最下段のみ最大まで／支柱は青い印まで	向かって右の出演者
カメラ2	**黒**	センター	**脚を3段とも伸ばしきり、中央の支柱も伸ばす**	全体の引き
カメラ3	**赤**	向かって左	カメラ1と同じ	向かって左の出演者

カメラ1と3の高さを合わせる

測る必要はありません。次の2つを合わせれば、正しい高さになります。

---

1 **脚は、一番下の細い段だけを最大まで伸ばす**

上の2段は縮めたままです。



---

2 **中央の支柱を、青いテープが見える位置まで出す**

支柱に青い印が巻いてあります。その位置まで引き上げてください。



カメラ2（センター）は、**脚も支柱もすべて伸ばしきります。**

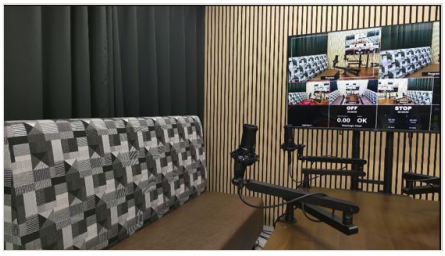


床の印に脚を合わせて立てます

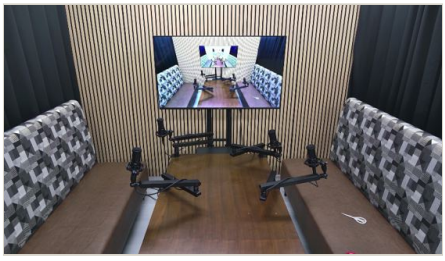
脚を伸ばしたら、ロックを確実に締めてください。ぐらつきがある状態でカメラを載せると倒れます。

正しい画角の見本

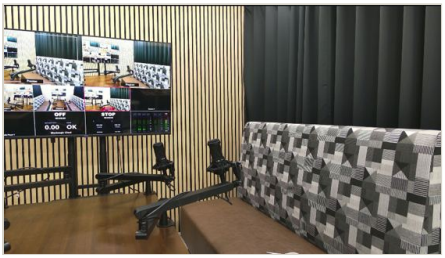
三脚を正しい位置と高さに立てると、それぞれこの画角になります。**設営が終わったら、確認用モニターと見比べてください。**大きく違う場合は、三脚の位置か高さがずれています。



カメラ１（向かって右・青）



カメラ２（センター・黒）



カメラ３（向かって左・赤）

カメラ1とカメラ3は、それぞれ**自分と同じ側に座る出演者**を斜めから捉えます。
カメラ2は、両側のソファとモニターが収まる引きです。

> **位置を変えると、顔が小さくしか写りません**
>
> このカメラは**ズームで寄ることができません。**そのため、撮りたい出演者のすぐ近くにカメラを置く配置にしています。床の印の位置から動かすと、画が成立しなくなります。

カメラを取り出す

カメラ3台とリモコンは、**技術卓の下にある黒い籠**に入っています。充電ケーブルにつないだ状態で収納してありますので、ケーブルを外して取り出してください。



技術卓の下の黒い籠。カメラ3台とリモコンが充電された状態で入っています

カメラを三脚に取り付ける

カメラの底には、三脚に載せるためのプレートが**取り付けたままになっています。**外す必要はありません。



1. プレートを雲台に差し込む



2. ネジを締めて固定する

> **カメラ本体に番号のシールがあります**
>
> ロゴのある面に `1` ・ `2` ・ `3` のシールが貼ってあります。**この番号が、ケーブルのタグとリモコンのボタンに対応します。**

締めたら、カメラを軽く持ち上げるように動かして、外れないことを確認してください。ここが甘いと、撮影中にカメラが傾きます。

マイクとアームを取り出す

マイク4本とマイクアームは、**ソファ横のコンテナ**に入っています。



ソファの横に置いてあります



白いメッシュ袋がマイク、黒い部品がアームです

> **マイクは1本ずつセットになっています**
>
> 白いメッシュ袋1つに、マイクとショックマウントが1本分ずつ入っています。使うぶんだけ取り出し、撤収時は同じ組み合わせで袋に戻してください。

マイクアームを組み立てる



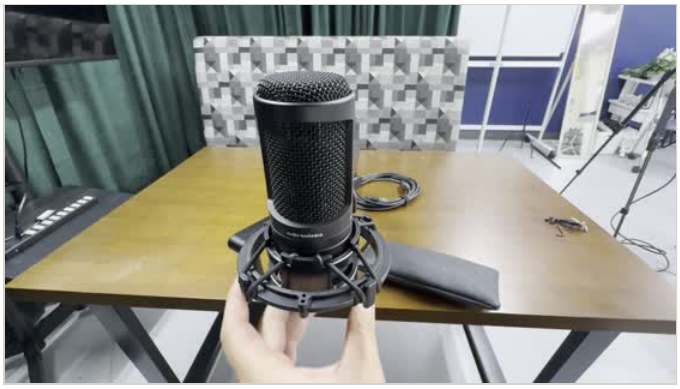
1. クランプをテーブルの縁に締める



2. アームをクランプに差し込む



3. アームの先にショックマウントを付ける



4. マイクをショックマウントに固定する

クランプはテーブルの縁を挟んで、下のネジで締め上げます。**ぐらつきがなくなるまで締めてください。**ここが緩いと、アームごとテーブルから外れます。

アームは、クランプ上部の筒に支柱をまっすぐ差し込みます。**奥まで入っていることを確認してください。**浅いとアームが傾きます。

ショックマウントはゴムでマイクを吊る構造です。マイクを入れたあと軽く揺らして、外れないことを確認してください。

アームが固い・緩いときは、六角レンチで調整できます

ソファ横のコンテナに入っています。アームの関節が固くて動かない場合や、逆に緩くて下がってしまう場合に、関節のネジを回して調整してください。使い終わったらコンテナに戻してください。

照明を運ぶ

照明4台は、スタンドに取り付けた状態で技術卓のとなりに立ててあります。**そのまま撮影位置まで運んでください。**組み立ては不要です。



照明4台。スタンドに付いた状態で置いてあります



砂袋は照明スタンドの足元にあります

砂袋を、ライトスタンドの脚に必ず載せてください

照明を立てたら、**1台につき1袋、スタンドの脚に載せてください。**ライトスタンドは上が重く、下が軽い構造です。ケーブルに足を引っかけただけで倒れ、**照明が人に当たる事故につながります。**

砂袋は、照明スタンドの足元にまとめて置いてあります。照明を運ぶときに、一緒に持っていってください。

03 ケーブルを挿す

挿すのは3種類だけです。すべてタグが付いているので、番号を合わせるだけで完了します。

技術卓側はつながっています

スイッチャーやミキサーに挿す作業はありません。**お客様が触るのは、カメラとマイクに挿す側だけです。**

① カメラのHDMI

ソファ席の①の床に、**CAM1・CAM2・CAM3** のタグが付いたHDMIケーブルが3本置いてあります。カメラ本体のシールと同じ番号のケーブルを挿してください。



1. ①の床にまとめてあります



2. カメラに挿す

> **変換アダプタは付いたままです**
>
> カメラに挿す側の先端には、小さな変換アダプタが取り付けてあります。
> **外さずにそのまま差し込んでください。**

② カメラの電源

テーブルの脚に電源タップが固定してあり、USBケーブルが3本つながっています。カメラの後ろに挿してください。



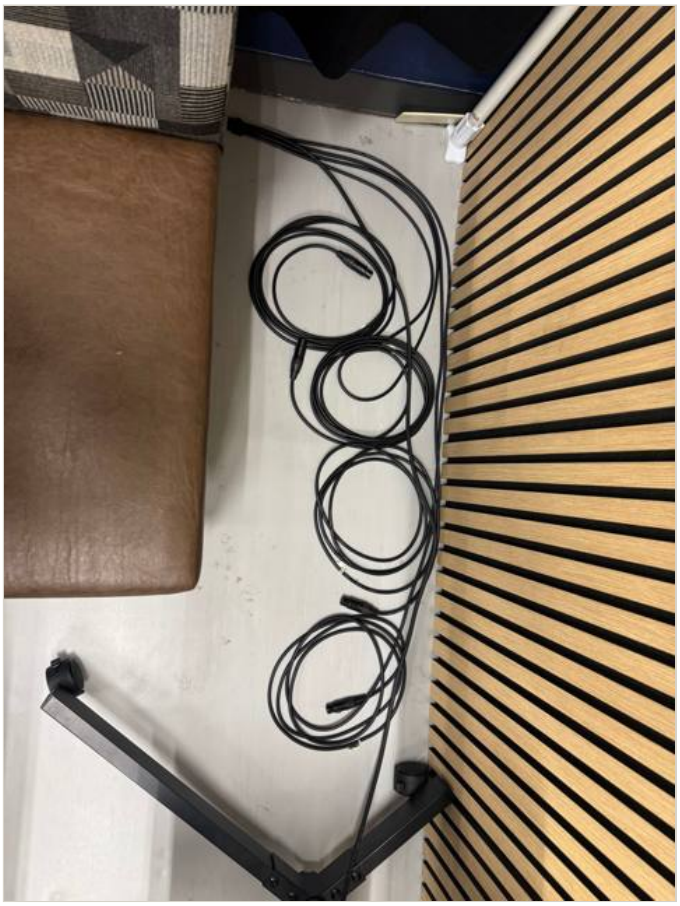
1. テーブルの脚に固定された電源タップ



2. カメラに挿す

③ マイクケーブル

②の床に、**Mic1〜Mic4** のタグが付いたマイクケーブルが4本置いてあります。使う本数だけ、マイクの底に挿してください。



1. ②の床にまとめてあります



2. マイクに挿す。カチッと音がするまで

> **抜くときはツメを押してください**
>
> マイクケーブルのコネクタには、上部にツメがあります。**ツメを押しながら引き抜いてください。**押さずに引っ張ると壊れます。

配線するときの注意

- ケーブルには少したるみを持たせてください。ぴんと張ると、人がぶつかったときに機材ごと倒れます。
- 通路を横切る場合は、壁際を這わせるか、養生テープで床に留めてください。
- マイクのケーブルと、照明の電源ケーブルを平行に並べないでください。ブーンというノイズの原因になります。

すべて挿し終えるまで、電源を入れないでください

マイクのケーブルは、電気が流れている状態で抜き差しすると壊れます。

04 電源を入れる

ケーブルをすべて挿してから、この順番で入れます。

電源を入れる順番

1. ミキサーのつまみを初期状態にする
   全フェーダーを下げきる／GAINを反時計回りいっぱいに戻す
2. **スピーカーのボリュームを絞りきる**
   上げたまま電源を入れると、大きな音が出ます
3. 照明 4台
   背面下部のスイッチを右端の II まで倒す
4. カメラ 3台
   土台の赤い丸マークを長押しします
5. 技術卓の電源タップのスイッチを入れる
   これで通電します
6. ミキサーと確認用モニターの電源を入れる
   この2つは本体の電源ボタンを押します
7. ミキサーの
   `PHANTOM +48V`
   をオンにする
   天面中央の赤いスイッチ。これを入れないとマイクの音は出ません
8. スピーカーの音量を上げる
   7章の手順で調整します



カメラの電源は、土台にある赤い丸のマークを長押しします。短く押すだけでは入りません



ミキサー天面中央の **PHANTOM +48V** スイッチ。赤いスイッチです

ファンタム電源は必ず最後に入れる

マイクはこの `+48V` がないと音が出ません。ただし、**電気が流れている間はマイクケーブルを抜き差ししないでください。**

あとからマイクをつなぎ足す場合は、次の順番で行ってください。

① フェーダーを下げきる → ② `PHANTOM +48V` をオフにする → ③ ケーブルをつなぐ → ④ ファンタムをオンに戻す → ⑤ フェーダーを上げる



電源を入れると、カメラ本体のランプが光ります。色が変わって落ち着けば起動完了です

ここまでできたら

確認用モニターに、カメラ3台の映像が分割で表示されます。映っていない枠があれば11章へ。

05 照明を配置する

リモコンはありません。ライト本体の背面にあるダイヤルで調整します。数字の表示はないので、つまみの向きで合わせます。

電源スイッチは右端まで倒す

背面下部のスイッチは3段階です。**右端の `II` がコンセント用**です。中央の `O` は切、左の `I` はバッテリー用で、バッテリーを入れていないと点灯しません。



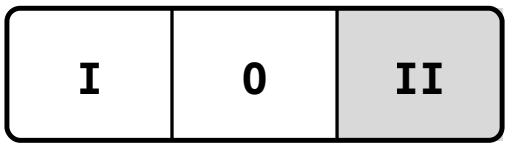
背面下部のスイッチ。右端の II がコンセント用です

2つのダイヤルの役割

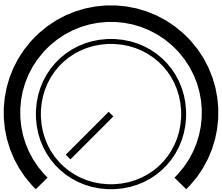
上が `YELLOW`、下が `WHITE` です。**オレンジ色の光と白い光を、それぞれどれだけ出すか**を決めるつまみです。

> **迷ったら、YELLOWは使わず WHITE だけで調整してください**
>
> `YELLOW` を反時計回りいっぱいに回しきり、`WHITE` だけで明るさを決めます。4台とも同じやり方にすれば、色が自然にそろいます。

背面の操作部



ここに倒す



YELLOW
左いっぱいに回す



WHITE
ここで明るさを決める

数字の表示はありません。明るさは、確認用モニターを見ながら決めてください。

配置は自由です。出演者の顔に光が届いていれば、細かい置き方に決まりはありません。

> **左右で明るさをそろえてください**
>
> 向かい合って座る撮影では、片側だけ明るいと、カメラを切り替えたときに画面の明るさが飛んで見えます。

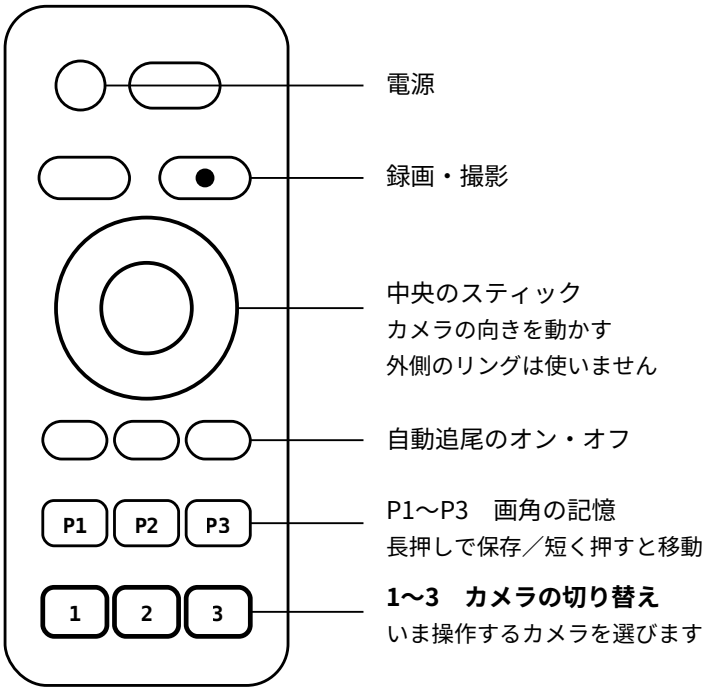
> **YELLOWを回すと、顔の色が変わります**
>
> 1台だけ `YELLOW` が回っていると、その光が当たった側だけオレンジがかって見えます。撮影前に、4台とも左いっぱいになっているか確認してください。

06 カメラを操作する

カメラの向きは、リモコンで操作します。1台のリモコンで、カメラ3台を切り替えて動かせます。

> **カメラ本体を手で回さないでください**
>
> 首振り部分はモーターで動いています。手で無理に向きを変えると壊れます。三脚ごと動かすのは問題ありません。

リモコンのボタン



白く光る 1・2・3 がカメラの切り替えです。まずここでカメラを選んでから操作します。

1 リモコンの電源を入れる

カメラの起動が終わってから操作してください。

2 **操作したいカメラを、`1`・`2`・`3`のボタンで選ぶ**

カメラ本体のシールと同じ番号です。どのカメラを操作しているか分からなくなったら、スティックを軽く倒してみてください。**動いたカメラが選択中です。**

3 **向きを合わせる**

中央のスティックで、カメラの向きを調整します。

4 **画角を`P1`〜`P3`に保存する**

決めた画角で`P1`を**長押しすると保存**されます。あとは**短く押すだけで、その画角に戻ります。**

5 **自動追尾を使うか決める**

スティックの下にあるボタンで切り替えます。座って話す撮影ではオフのほうが画面が安定します。

ズーム（外側のリング）は使わないでください

このカメラのズームは、画像を切り取って引き伸ばす方式です。寄せるほど画質が落ちます。

画角は三脚の位置と高さで決まるように設計しています。寄りの画が必要な場合も、ズームではなくカメラの向きで調整してください。

ジェスチャーコントロールについて

カメラには、手の動きを読み取って操作する機能があります。

このスタジオでは、オフに設定しています

話しながら手を挙げるといった自然な動作が操作として読み取られ、撮影中に画面が動いたり録画が止まったりすることがあるためです。そのままお使いいただければ、意図しない動作は起きません。

オンに変更された場合は、必ずオフに戻してください

設定はカメラ本体に保存され、**次にご利用になる方にもそのまま引き継がれます。**

> **リモコンは1台だけです**
> 置き場所を決めて、撮影中はそこに戻すようにしてください。充電はUSB-Cです。**使い終わったら、技術卓の下の黒い籠に戻して充電ケーブルにつないでください。**

アプリからも操作できます

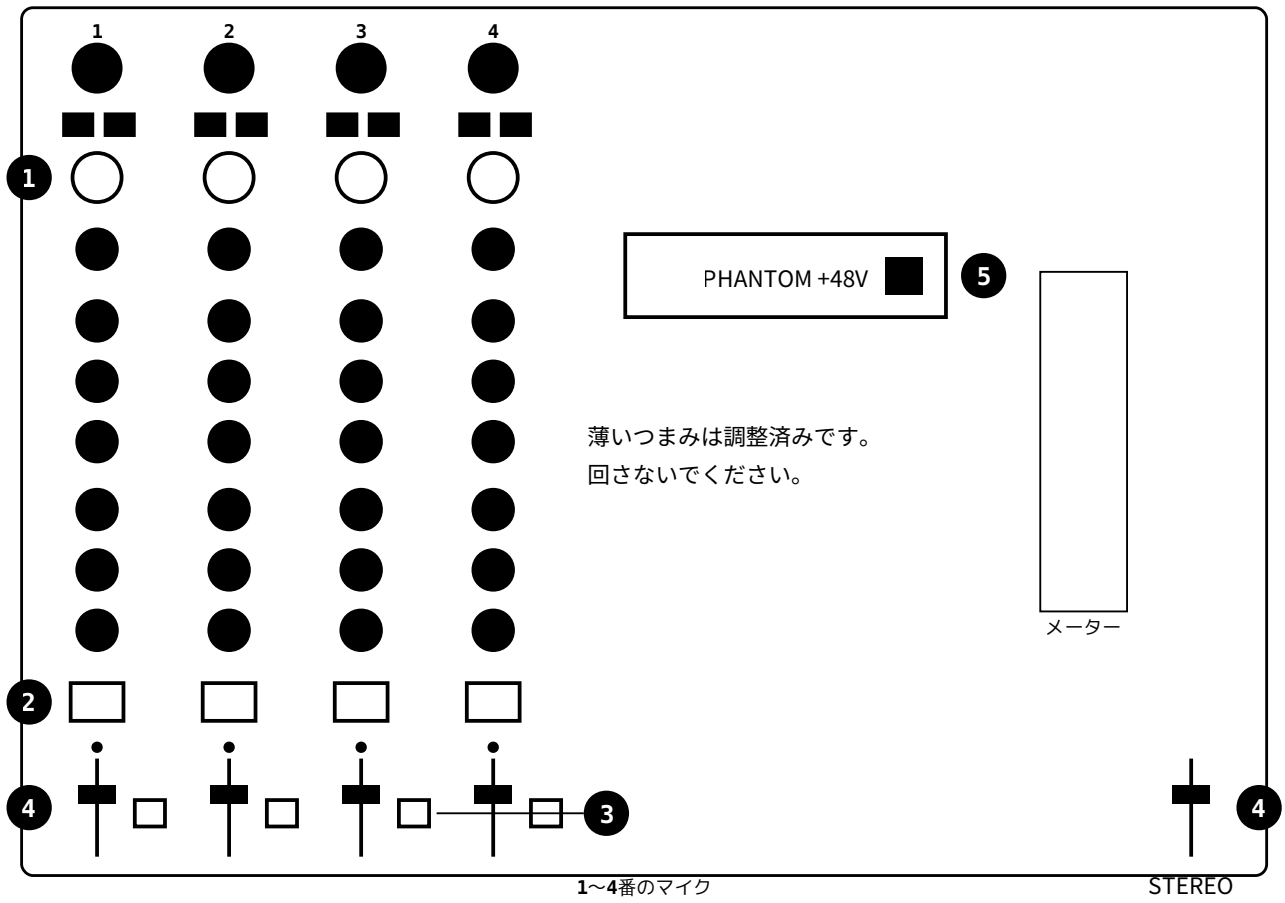
PCに **OBSBOT Center** というソフトを入れると、画面を見ながら細かく調整できます。入手先は9章に記載しています。ふだんの撮影では、リモコンだけで完結します。

07 音を出す

配信で最も多いトラブルが音です。順番どおりに進めてください。

操作するのは、この4つだけ

場所	見た目	役割
GAIN	各チャンネル最上部の白いつまみ	マイクごとの感度
ON	黄色く光る四角いボタン	そのマイクを使うかどうか
ST	フェーダー横の赤いボタン	押し込んでおく。これが出ていると音が届きません
フェーダー	縦のスライダー（1〜4と赤のSTEREO）	音量。`0` の目盛りが標準位置



1 GAIN　**2** ONボタン（黄）　**3** STボタン（赤）　**4** フェーダー　**5** PHANTOM +48V

緑・黄色・青のつまみは回さないでください

音質と残響の設定です。調整済みなので、動かすと音が悪くなります。



マイクケーブルはミキサーに接続済みです。Mic1〜Mic4のタグが付いています

マイクを使えるようにする

1 **右端の赤いSTEREOフェーダーを `0` まで上げる**

パネルに印刷された **0** の目盛りが正しい位置です。

2 **使うチャンネルの `ON` ボタンが黄色く光っているか確認する**

2人での対談なら、1番と2番だけで十分です。

3 **赤い `ST` ボタンが押し込まれているか確認する**

音が出ないときの原因で最も多いのがここです。

4 **使うチャンネルのフェーダーを `0` まで上げる**

5 **いつもの声で話しながら、GAINつまみを回す**

各チャンネルの一番上にある白いつまみです。時計回りで大きくなります。



6 **赤いランプ（PEAK）が光らないところで止める**

一番大きな声を出したときに、ときどき光るか光らないかくらいが適正です。

7 **右側のメーターで最終確認する**

メーターが **0** のあたりまで振れていれば適正です。



フェーダーとその横の赤いSTボタン

エアコンや外の音がマイクに入ります

このスタジオのマイクは感度が高く、**エアコンの送風音や室外の音を拾います。**録音した音に「サー」という音が乗る場合、多くはこれが原因です。

気になる場合は、収録中だけエアコンを止める、風量を下げるなどをお試しください。**使わないチャンネルの ON ボタンを消しておくと、拾う量が減ります。**大切な収録の前に、一度録って確認されることをおすすめします。

音を聞く

技術卓の両端にスピーカーがあります。ミキサーからの音が出るので、**収録中の音を耳で確認できます。**



スピーカー正面の **VOLUME** つまみ。左が電源、右がヘッドホン端子です

---

1 **スピーカーのボリュームが絞られていることを確認する**

スピーカーの間にあるつまみです。上げたまま電源を入れると、大きな音が出ます。

2 **ミキサーの `MONITOR LEVEL` つまみを上げる**

ミキサー右側にあります。まずはここで音を送り出します。

3 **スピーカーのつまみで、聞きやすい音量に合わせる**

キーンという音が出たら、すぐに音量を下げてください

スピーカーの音をマイクが拾うと、音が回り込んで**ハウリング**が起きます。配信や録音にもそのまま入ります。

スピーカーを出演者の近くに移動した場合は、特に起きやすくなります。音量を下げる、スピーカーの向きをマイクから外す、といった調整をしてください。

スピーカーは移動できます

出演者に音を聞かせたい場合は、ソファ席のほうへ動かして構いません。**ケーブルはテーブルの左側面にまとめてあります。**移動後は、必ずハウリングが起きていないか確認してください。

ヘッドホンも使えます

ミキサーの `PHONES` 端子、またはスピーカー正面のヘッドホン端子に挿してください。**ヘッドホンはお客様にてご用意をお願いします。**スピーカーを使わずに済むので、ハウリングの心配がありません。

マイクとアームの扱い

- マイクは正面の音を拾う仕様です。側面や裏側は拾いにくいので、向きにご注意ください。
- アームは関節をゆっくり動かしてください。勢いよく動かすとバネが戻り、マイクがぶつかります。
- アームはテーブルの振動をマイクに伝えます。**テーブルを叩いたり、アームの根元に肘をついたりしないでください。**

08 映像を切り替える

3台のカメラのうち、どれを見せるかを選びます。

ボタン	何が起きるか
`1` 〜 `3`	押した番号のカメラに切り替わります
`CUT`	瞬間的に切り替えます
`AUTO`	時間をかけて切り替えます

赤く光っているボタンが、いま配信・録画に出ている映像です。



1. MIC 1 の ON が赤く光っている状態が正しい



2. 話すと、モニターの MIC1 のメーターが振れる

> **スイッチャーの `MIC 1` は `ON` にしてください**
>
> 前面左上に `MIC 1` の `ON` / `OFF` ボタンがあります。ミキサーからの音はここを通るので、`ON` が点灯していないと音が出ません。
>
> その下の `AFV` ボタンは押さないでください。押すと、カメラを切り替えるたびにマイクの音が消えます。

確認用モニターの見かた



正しく動いているときの画面です。設営後、この状態になっているか確認してください。

場所	見かた
上段 左 Preview	次に出す映像です
上段 右 Program	**いま配信・録画に出ている映像です**
中段 Camera 1〜4	カメラ3台の映像。**赤い枠が付いているものが、いま出ている映像**です。Camera 4 は使っていないので黒いままで正常です
下段 右 メーター	音の大きさです。話すと `MIC1` が振れます

分割表示にならないときは

1画面だけ映る場合は、スイッチャー前面右側の `VIDEO OUT` の列にある `M/V` ボタンを押してください。

09 PC・録画・映像出し

配信や録画は、お客様のPC・アカウント・機材で行っていただきます。

接続口	できること	ご用意いただくもの
USB-C	スイッチャーがPCから「1台のWebカメラ」として見えます。Zoom・Teams・OBS などでそのまま選択できます	PC本体
USB-C（録画）	スイッチャーに直接、映像を録画できます	録画用の外付けSSD
有線LAN	差込口は**機材の棚の一番下に1つ**です	技術卓まで届く長さのLANケーブル

USB-Cは1つしかありません。PC接続と録画は同時にできません

PCにつないでいる間は、スイッチャーでの録画はできません。**録画が必要な場合は、PC側の録画機能をお使いください。**

ソファ席のモニターに映像を出す

ソファ席の間にあるモニターには、**番組ロゴやVTR、ゲーム画面など、撮影で見せたい映像**を表示できます。モニターに映したものをカメラで撮ることで、配信に乗せる使い方です。

【要確認】準備中です

技術卓にお客様PC接続用のHDMI口を設ける予定です。現在ケーブルの準備中のため、接続方法と切替器の操作については、確定しだい本項に追記します。

必要に応じて使うソフト

ふだんの撮影では不要です。カメラやスイッチャーの細かい設定を変える場合に
お使いください。

OBSBOT Center

カメラの設定用ソフトです。

https://www.obsbot.jp/jp/download/obsbot-tail-air

ATEM Software Control

スイッチャーの設定用ソフトです。お使いのPCに合わせて選んでください。

Windows版のダウンロードページ

Mac版のダウンロードページ

> **設定を変えた場合は、元に戻してください**
>
> ソフトで変更した内容は機材本体に保存され、次のお客様にも引き継がれます。

10 撤収する

準備と逆の順番です。技術卓のケーブルは抜きません。

撤収の順番

1. 配信・録画を停止する
2. **スピーカーのボリュームを絞りきる**
   電源を切るときに大きな音が出るのを防ぎます
3. すべてのフェーダーを下げきる
   チャンネル1〜4と、右端の赤いSTEREOフェーダー
4. GAINつまみを反時計回りいっぱいに戻す
5. **PHANTOM +48V をオフにして、5秒待つ**
   これを忘れてケーブルを抜くと、マイクが壊れます
6. ミキサーと確認用モニターの電源を切ってから、技術卓の電源タップを切る
   続けてカメラ3台と照明4台も切ります
7. カメラとマイクからケーブルを抜く
   抜いたケーブルは、元の①②の床へ束ねて戻します
8. カメラを三脚から外し、技術卓の下の籠に戻して充電ケーブルにつなぐ
9. マイクをアームから外し、アームをテーブルから外す
10. 三脚を技術卓のとなりに戻す
    立てたままで構いません
11. 照明を技術卓のとなりに戻す
12. スピーカーを動かした場合は、技術卓の上に戻す
13. 砂袋を照明スタンドの足元に戻す

技術卓のケーブルは抜かないでください

スイッチャーやミキサーに挿さっているケーブルは、常時接続のままです。抜くと次のお客様が撮影できなくなります。

退出前のチェック

- 録画データを保存し、SSDやPCを取り外した
- すべてのフェーダーが下がっていて、GAINが最小に戻っている
- `PHANTOM +48V` がオフになっている
- カメラ・照明・技術卓の電源がすべて切れている
- カメラ3台とリモコンを籠に戻し、充電ケーブルにつないだ
- マイク4本とアームを元の場所に戻した
- 三脚3台と照明4台を技術卓のとなりに戻した（三脚は立てたままで可）
- 砂袋を照明スタンドの足元に戻した
- スピーカーを技術卓の上に戻し、ボリュームを絞った
- ケーブルを①②の床に束ねて戻した
- カメラの設定を変更した場合、元に戻した（ジェスチャーコントロールはオフ）
- テーブル・椅子を元の配置に戻した
- 机上の私物・ゴミを片付けた

11 困ったとき

上から順に試してください。

音のトラブル

症状	確認すること
音が出ない	① 赤い `ST` ボタンが押し込まれているか（最も多い原因） ② スイッチャーの `MIC 1` が `ON` か ③ `PHANTOM +48V` のランプが点いているか ④ 黄色い `ON` ボタンが光っているか ⑤ フェーダーが下がっていないか ⑥ ケーブルがカチッと入っているか
音がときどき消える	スイッチャーの `MIC 1` の `AFV` が押されていないか確認する
全体の音量がおかしい	右端の赤いSTEREOフェーダーが `0` の位置からずれていないか確認する

症状	確認すること
音が小さい	GAINつまみを上げる。マイクの正面を向いているか確認する
音が割れる	赤いPEAKランプが光っていないか確認し、GAINを下げる
キーンと鳴る	スピーカーの音をマイクが拾っています。スピーカーの音量を下げるか、ヘッドホンに切り替えてください
電源を入れたとき大きな音が出た	スピーカーのボリュームを絞ってから電源を入れてください
サーという音が入る	エアコンの送風音を拾っています。使わないチャンネルの `ON` を消す、風量を下げるなどをお試しください
外の音が入る	マイクは感度が高く、室外の音も拾います
ブーンという音	マイクケーブルが照明の電源ケーブルと平行に並んでいないか確認し、離す

映像のトラブル

症状	確認すること
1台だけ映らない	① 赤い丸マークを長押しして電源が入っているか ② HDMIが奥まで刺さっているか ③ 電源のUSBケーブルがつながっているか ④ 起動が終わっているか（30秒）
カメラの番号が合わない	カメラ本体のシールと、ケーブルのタグの番号が一致しているか確認する
分割表示にならない	スイッチャー前面の `VIDEO OUT` にある `M/V` ボタンを押す

症状	確認すること
リモコンが効かない	① 電源が入っているか ② 操作したいカメラが選択されているか ③ カメラの起動が終わっているか ④ 充電切れの場合はUSB-Cで充電する
カメラが勝手に動き出す	自動追尾が始まっています。本体のランプが青い場合は追尾中です
顔が暗い／白飛びする	照明の明るさを調整（5章）
顔の色が左右で違う	4台とも `YELLOW` が左いっぱいに回っているか確認する
ライトが点かない	背面のスイッチが右端の `II` まで倒れているか確認する

> **それでも直らないときは**
> 12章の連絡先へご連絡ください。技術卓のケーブルを抜き差しすると、状況が分かりにくくなり復旧に時間がかかります。

12 連絡先

お問い合わせ

機材の破損、ケーブルの不具合、その他11章で解決しないトラブルは、**ご予約いただいた予約サイトのお問い合わせ窓口**までご連絡ください。

予約サイトに記載しているもの

- Wi-Fiのパスワード
- お問い合わせ窓口

いずれもご予約確認メールからご確認いただけます。**撮影を始める前に、一度開いておくことをおすすめします。**

シーズスタジオ｜配信スタジオ 使い方マニュアル

ご不明な点は、ご予約いただいた予約サイトのお問い合わせ窓口までご連絡ください。